

## 風の舞台「石の風ぐるま」

中国横断自動車道の岡山米子線の開通により、日本海と太平洋が高速道路によって結ばれた。有漢町は、そのほぼ中間に位置することから、風（人・モノ・情報）を集め、風を起こしていくシンボルモニュメントとして、「風の舞台 石の風ぐるま」を設置した。

有漢町には、鎌倉時代末期の名工である井野行恒作といわれる国指定重要文化財の石造物をはじめ、多くの優れた石造文化が伝えられている。石の風ぐるまは、この石の文化と高速道路という現代の新しい文化を融合させるために、町内の若い人たちのアイデアから生まれたものである。

有漢IC近くの常山公園内に設置された石の風ぐるま7基は、太平洋と日本海を結ぶ方向に並べられており、巨大な石の土台に18個の羽根が取り付けられている。設置場所は広々とした芝生広場で、憩いの場としても親しまれており、夜間はライトアップが行われ、幻想的な情景が浮かび上がるなど、有漢町の新しいシンボルとして注目を集めている。



所在地	岡山県上房郡有漢町大字有漢
諸元	面積：約6,000m <sup>2</sup>
関係する施設など	保月の石造物、大平の森、大平山展望台、権現山展望台ほか